

梅野さんの遺したもの

梅野記念絵画館友の会
館長 佐藤 修

この絵画館ができて2年目の1999年(平成11)に「梅野記念絵画館友の会」が発足しました。友の会の事業として「私の愛する一点展」がスタートしたのは2001年のこと。今、どこの美術館にもない独創的な企画として評価され、休み無く続いているこの展示会は、誰が考案したものなのでしょうか。何人かの論議を経て具体化されていったのでしょうか、首謀者(?)は間違いなく時の館長梅野隆さんです。

梅野さんは東京・京橋に「美術研究藝林」を開業していた時代、暇があれば銀座界隈の画廊をめぐる骨董市を覗き隠れた逸品を見つける、そんな生活を送っていました。ご存知のように梅野さんはものを集めるだけの収集家ではなく発見したら研究する、更に集める、月報を通じて研究成果を発信する、その作家の展示会を開く、そういう行動派のコレクターでした。

「画廊」とか「ギャラリー」とか名乗らずに「美術研究」と称したところにも梅野さんのプライドと覚悟の程が窺い知れるのです。

1998年、この地に活動拠点を移し、自らが絵画館館長となったことにより、梅野さんは、生きがいとしていた画廊巡りが出来なくなり隠れた才能、忘れられた逸材を発掘する喜びが味わえなくなりました。考えてみれば予測できたことであり、当然のことではありませんでした。

この一点展は、そんな中で梅野さんの胸に浮かんだ名案だったのです。すなわち、「自分が収集に明け暮れ出来なくなった分、友の会の人たちの収集活動に頼ろう。その成果を発表してもらおう、その場が「一点展」だ、と。

そのことが畢竟、絵を手に入れることの楽しさ、絵のある生活を持つことの豊かさを知ってもらってそれを促すことにもなると思いついたのです。大きな視点で見れば、美術を愛すること大事さを味わっていただくことの啓蒙活動であり、普及活動でもあります。回を重ねて14年、梅野さんの播いた種は見事に開花し果実をみのらせたのです。

2014年展覧会スケジュール

変更となる場合もございます。

	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8
大展示室	第14回 私の愛する一点展 9/6~10/26		堀内康司展 11/1~1/18		収蔵品管理のため休館	梅野記念絵画館の美展 2/14~3/29		林 俊衛展 4/11~6/28			未 定	
ふれあい館	浅野弥衛展 9/6~10/26	信州ゆかりの作家たち 11/1~1/18			収蔵品展 予定 2/14~3/12		みまさか絵画館	青木繁デッサン展 4/11~6/28				

2014年イベントスケジュール

8/23(土)	スケッチ大会	9:00~
9/7(日)	私の愛する一点展ギャラリートーク	13:30~
10/11(土)~12(日)	火のアートフェスティバル	
11月15日(土)	堀内康司展ギャラリートーク	13:30~
1月18日(日)	親睦会・新年のイベント	

*変更となる場合もございます。
詳細はお問い合わせください

施設情報、開館案内

とうみし 東御市梅野記念絵画館 <http://www.umenokinen.com/>

〒389-0406 長野県東御市八重原 935-1

TEL0268-61-6161、FAX0268-61-6162、umenokinen@ueda.ne.jp

開館時間 午前9時~午後5時 (4時30分迄にご入館ください)

入館料 800円(高校生以上) 15名以上団体700円

身障者割引、学校利用減免、減額制度もあります。

休館日 9月8、16、22、24、29日 10月6、14、20日

アクセス

お車 練馬ICから2.5時間

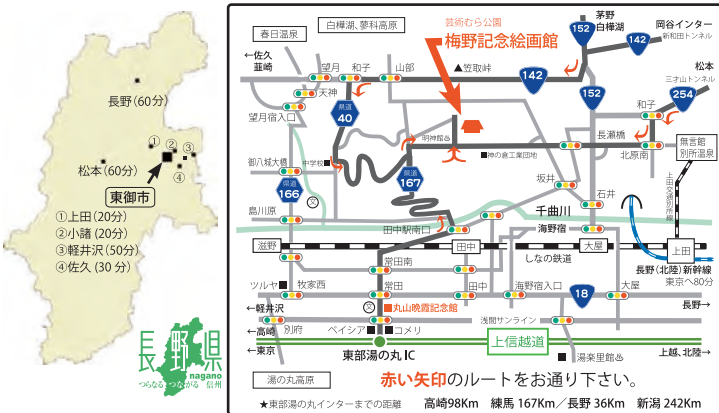
鉄道 東京から最速2時間
しなの鉄道「田中」下車、タクシー15分

◆関東、北陸方面から
上信越道東部湯の丸インターから15分

◆関東、北陸方面から
北陸新幹線「上田」で、しなの鉄道乗換、田中下車。

◆中部、関西方面から
長野道岡谷インターから新和田トンネル、R142号経由で約1時間

◆中部、関西方面から
特急しなの号利用「篠ノ井」で、しなの鉄道乗換、田中下車



地域の情報をラジオで発信!
エフエムとうみ 78.5MHz

リクエスト、メッセージは
m@fimtomi78.jp

第14回

私の愛する

一点展

2014年
9月6日(土)~10月26日(日)

私の愛する一点展ギャラリートーク
9/7(日) 13:00

同時開催: 生誕100周年 浅野弥衛展

〒389-0406 長野県東御市八重原 935-1 TEL0268-61-6161

梅野記念絵画館
www.umenokinen.com

第14回「私の愛する一点展」に寄せて

梅野記念絵画館友の会 会長 倉沢紀武

今年も「一点展」が始まります。もう14回目です。14回ともなれば往々にしてマンネリ化しダレてきはじめます。

この一点展はどうでしょうか。まだ応募作品の受付の締め切り前ですが、その段階での応募作品のリストを見る限り、まったくそんな気配は感じられません。出品者のコメントを拝見すると今までにも増して出品作への思い入れ、強い意気込みが伝わってきます。

ちょうど今、絵画館では「異端の天才 横井弘三展」が開催中です。全館通して130点の作品が展示されています。見ていくといつか以前に目にした作品があることに気づきます。そう、幾年か前に「一点展」に飾られてあったものが展示されているのです。館長に聞くと、展覧会の作品を選択する際、過去の一点展の図録は重要な手引書であり、今回も過去に横井作品を出された方には声を掛けさせていただいた、“見たことのある作品”があるのはその結果であるとのこと。もっと言えば、この一点展で発見され、数年後企画展開催に発展した例も少なくないとのこと。なるほど、この一点展は、そういう点では絵画作品の所有者を知る貴重な情報源であり大きなネットワークとなっていることを改めて感じます。

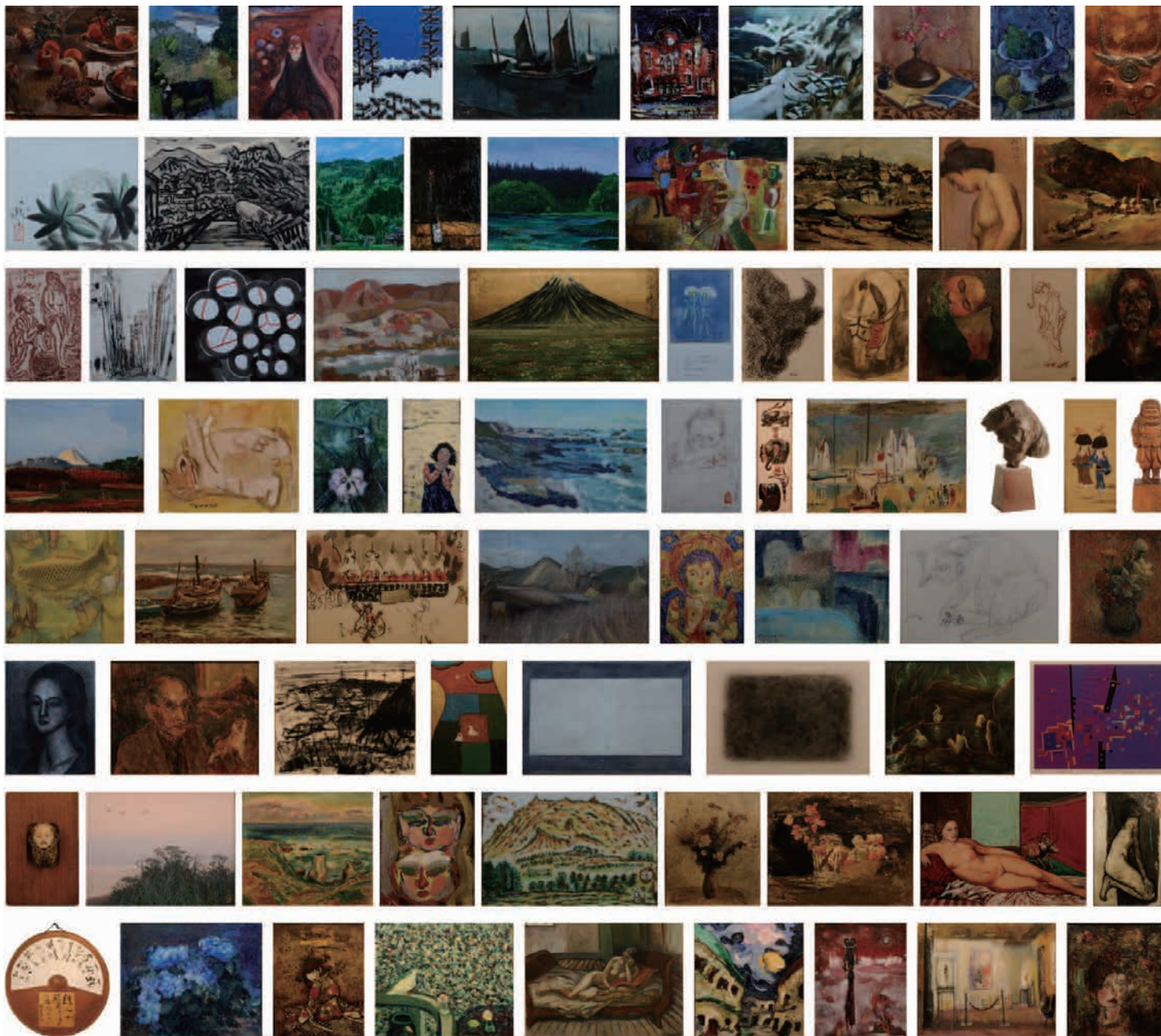
今回で14回目、展示された作品数も、もうすぐ1000点に達するのではないのでしょうか。我々友の会会員が積み上げてきた大いなる財産です。誇りにしていいことだと思います。

この展覧会を舞台に、梅野隆さんの功績を称え、優れた収集顕彰活動に努めたコレクターに褒賞を、という趣旨で「木雨賞」が設定されました。この展覧会を更に充実したものに発展させていくためには素晴らしい有効なアイデアだと思います。

ともあれ、「私の愛する一点展」は、何処にもないユニークな展覧会として広く知られるようになりました。全国450名の会員の皆様のみならず、美術を愛好する方々に、是非足を運んでいただき展示作品をじかにご覧くださいますようお願い申し上げます。

* * * * *

宮腰喜久治、石野容三、猪熊昇、栗原一郎、坪内滄明、岩井紀美子、西村宣造、青山巨幹、水野朝、池端邦輔、平野雅子、栗山清太郎、風間完、江藤哲、田中佐一郎、久保一雄、矢崎虎夫、宇根元警、久保守、坪内節太郎、池辺貞喜、藤田隆治、野田英夫、小山田二郎、吉岡憲、桜井陽司、木村辰彦、若林砂絵子、坪内節太郎、池辺貞喜、藤田隆治、野田英夫



* * * * *

川合改次郎、小早川篤四郎、木村莊八、玉村方久斗、林倭衛、鈴木金平、安藤信哉、中村忠二、水上民平、伊藤廉、山路真護、内田巖、オーガフミヒロ、佐々木誠、島村洋二郎、平澤喜之助、智内兄助、山内達雄、古田恵美子、鈴木與四郎、大原裕行、

* * * * *

宮坂房衛、武捨一久、寺田政明、丸木俊、松岡正、浅野弥衛、月岡雪鼎、丸山晚霞、キース・ヴァン・ドンゲン、倉田白羊、白山卓治、オーギュスト・シャポー、横井弘三、内村四十四、新井狼子、木村利三郎、小貫政之助、梅野木雨、白根光夫、江藤哲、